

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」～社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます～  
生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校をめざします。  
・普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校  
・体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の向上

- (1) 生徒のニーズに応えた学習指導の充実を図る。  
ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。  
イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。  
(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。  
ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。  
イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。  
※ 卒業アンケートで「3年間勉学に一生懸命取り組めた」と答える生徒（H25：64.4%）、「大塚で3年間学んで学力面で伸びた」と答える生徒（H25：55.7%）をそれぞれH27年度には70%とする。

## 2 志や夢のはぐくみ

- (1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。  
※ 進路面で「第1希望をかなえることができた」と答える生徒（H24：61.6% H25：61.6%）をH27年度には70%とする。  
(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。  
(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。  
※ 大学進学率（H25：35.6%）をH27年度には50%、センター試験受験者（H25：29名）50名以上をめざす。  
(4) 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」により構築された支援体制を維持・継続させる。  
※ 就職内定率100%（H25：100%）を継続する。

## 3 豊かな心と社会性の育成

- (1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに」を合言葉に規律規範の確立に努める。  
ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。  
※ 遅刻総数（教務遅刻）（H25：1251件）1,000件以内とする。  
イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心安全な学校づくりを推進する。  
ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、全生徒について保護者との三者面談を実施する。  
エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。  
オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。  
※ 普通科生徒の部活動への参加を積極的に推進し、部活動加入率をH27年度には70%以上とする。

## 4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

- (1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。また、2020年東京オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。  
ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。  
イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。  
(2) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b> ・「大塚を選んで良かったと思う。」に対する肯定値が、普通科 65.8% (3年 71.0、2年 66.4、1年 60.0) 体育科 81.3% (3年 91.4、2年 82.6、1年 69.9) ・「学校に行くのが楽しい。」に対する肯定値が、普通科 72.5% (3年 69.7、2年 73.9、1年 74.0)、体育科 69.9% (3年 69.7、2年 73.2、1年 66.8) ・「学校生活についての先生の指導に納得できる。」に対する肯定値が、普通科 62.8% (3年 62.7、2年 61.3、1年 64.5)、体育科 78.0% (3年 81.4、2年 73.0、1年 79.5) ⇒「学校に行くのが楽しい。」と思う生徒の比率は、体育科生が普通科生より少ないが、「大塚を選んで良かった。」と思う体育科生が普通科生より多いのは、日々の学校生活が部活動の練習等できつと感じるものの、充足感をもって日々の学校生活を送っていることと推測される。</p> <p><b>【保護者】</b> ・「子どもが大塚を選んで良かったと思っている。」に対する肯定値が普通科 83.8% (3年 88.0、2年 83.8、1年 79.5) 体育 91.6科% (3年 96.1、2年 88.7、1年 90.0) ⇒概ね例年通りの肯定値であり、今後も100%に一層近づくよう努力と工夫を重ねていく必要がある。</p>	<p><b>【第1回】</b> (平成26年6月26日開催) ○学校経営計画にある「東京オリンピックをめざす」具体的な策は何か？ ・当面はインターハイ出場をめざし、競技力向上を図る。 ○大阪市立高校の体育科のように、府教委に対して人材の投入を要望すべき。 ○大阪府PTA連合会からも、府教委に体育科の支援について要望を上げていく。 ○グラウンドは狭く、部員の多い部活動にとってはとても厳しい環境である。 松原市のグラウンド（近隣の市民運動公園）を借りるのはどうかとの意見が出たが、以前にも要望したものの断られた経緯を説明。第2グラウンドの整備当時も難しい問題を抱えていたが、粘り強く要望した。等</p> <p><b>【第2回】</b> (平成26年11月18日) ○授業見学、校内施設見学の感想 ・教室がきれい。 ・横を向いている生徒もいるが、授業の内容は聞いている。 ・授業の際の先生の言葉が「荒い」と感じた場面があった。 ・カードを用いるなど、授業に工夫が見られた。 ・教室がせまく窮屈に感じた。教室内にロッカーは置かないのか。 ○学校教育自己診断の回収方法と保護者からの回収率はどうか。 ・保護者分は生徒が持ち帰り、封筒に入れて提出してもらい、生徒はその場で記入させている。 ・保護者の提出率は60%程度である。 ○授業アンケートについて ・質問、内容によっては先生の人気投票になる。 ・アンケート結果を総じてみると、プラス評価が多い。</p> <p><b>【第3回】</b> (平成27年2月10日) ○平成26年度学校評価案及び平成27年度経営計画案について ・「体育科」の名称変更については、大塚と言えば体育科のイメージが強いが、体育の厳しいイメージをスポーツに変更することで時代に沿った柔らかさを感じるが、名称だけでなく中身の充実が大切ではないか。また、どのような生徒の育成をめざすのかが問われると思う。 ○授業アンケート、学校教育自己診断結果について ・小学校では回答の「わからない」欄をはずし、肯定・否定のどちらかを選んでもらうようにしている。中学校では生徒の回答には「わからない」欄をはずしている。 ・「担任の先生以外で相談できる先生がいる」という肯定率が普通科生に低いのが気になる。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	授業力向上の取組みと生徒の学習意欲を高める取組みの充実 ア ICT を活用した授業の推進 イ 授業研究の推進 ウ 学習意欲の向上	ア・ICT を活用した研究授業を実施し、さらに魅力ある授業への取組を推進する。 イ・学習指導部の取組みとして、研究授業週間を1・2学期に設定し、全教科で研究授業を実施する。 ・授業アンケートの結果を授業力向上委員会において分析することにより各教員の授業改善を進める。 ・初任1・2年目の教員を対象とした校内研修を充実させる。 ・府立摂津高校体育科との連携と交流を促進するとともに、「体育科教員指導支援事業」の効果的活用により「教科体育」の指導力向上を図る。 ウ・始業前学習の充実を図る。 ・成績不振者を対象にした短期集中講座を実施する。 ・校内における自学自習習慣を確立させる。	ア・授業にICTを活用する教員の率を30%以上に高める。 イ・授業相互見学を年間2回実施し、実施率を70%以上に高める。 ・学校教育自己診断において、「授業は工夫されていてわかりやすい」という生徒の回答率を70%以上とする。 ・初任者校内研修を、各学期に実施する。 ・授業アンケートにおいて、体育授業における「生徒意識」の項目での肯定的回答率を80%以上とする。 ウ・始業前学習を週3回実施する。 ・短期集中講座を各学期に実施する。 ・学校教育自己診断において「意欲的に取り組んでいる」という生徒の回答を75%以上とする。 ・自習スペースの確保と整備を行う。	ア・7教科、延べ28名の教員がICTを活用した授業を行っており、次年度は全教科において活用量も増加しながら、魅力ある授業づくりに取り組みたい。(◎) イ・「授業は工夫されていてわかりやすい」という肯定回答率が54.6%であり、一層授業改善に向けた取組みが必要である。 ・初任者校内研修を2回実施した。 ・授業アンケートにおける「体育の授業内容に興味関心を持つことができた(生徒意識)」について、1回目が3.15(78%)、2回目が3.18(79%)であり、一層の向上をめざす。(○) ウ・始業前学習、短期集中講座は計画通り実施できた。(○) ・学校教育自己診断における「意欲的に取り組んでいる」の肯定率が普通科61.4%、体育科76.7%であった。(○) ・図書館に自習スペースを確保、整備した。(○)
2 志や夢のはぐみ	将来の夢の実現に向けた取組みの充実 ア 進学講習の推進 イ 進学支援の充実 ウ キャリア教育の推進	ア・教育産業等と連携した土曜進学講習を計画実施する。 ・高大連携による進学や部活動の活性化に向けた事業を展開する。 イ・進路別授業・演習を2年次より実施する。 ・企業・大学見学会を1、2年生対象に実施する。 ・2年生を対象に冬季勉強合宿を実施する。 ウ・3年間実施した「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」によって構築された校内支援体制の維持・継続を推進し、就職内定率の安定化を図る。	ア・土曜進学講習を、夏・冬期に各20名以上の参加で実施する。 ・芦屋大学との高大連携を締結し、進学実績の向上と部活動の活性化を図る。 イ・希望者別の企業・大学見学会を1、2年次において実施する。 ・私立大学と連携した勉強集中講座に20名以上参加させる。 ・センター入試受験者50名以上、国公立大学合格者10名以上、難関私立大学合格者10%アップをめざす。(H25:49.4%) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた」と回答した率を70%以上とする。 ウ・就職内定率100%を維持する。 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数を15名以上とする。	ア・土曜進学講習は地元教育産業との調整がつかず見送ることとした。(△) ・高大連携に向けた取組みを推進するため、大阪体育大学及び芦屋大学と協定書を締結した。 イ・1年生全員を対象に大学見学会を実施した。(○) ・センター試験受験者は45名であり、国公立大学合格者4名 難関私立大学合格者9名であった。(△) ・大学進学率が58.1%であり、より早い時期からの仕掛けが必要である。(◎) ・「第1希望を叶えることができた」と回答する卒業生が81.6%であり、自己実現に向けた早期からの意識付けが必要である。(◎) ウ・就職希望者(35名)の内定率が100%であり、警察(5)、消防(1)、自衛官(10)、行政(1)の合格者が17名であった。(◎)
3 豊かな心と社会性の育成	規律・規範意識の確立と部活動の活性化 ア 基本的な生活習慣の徹底 イ 部活動の推進 ウ 教育相談体制の充実 エ 体罰根絶に向けた取組の充実	ア・早朝立ち番指導(挨拶と自転車指導、遅刻指導)を継続徹底する。 イ・普通科生徒の部活動入部を促進する。 ウ・教育相談室の有効活用を促進する。 ・人権学習の内容充実を図り、生徒・教職員の人権意識の高揚を図る。 エ・教職員に対する体罰根絶に向けた校内研修を充実させ、正しい部活動指導の在り方について意識高揚を図る。	ア・遅刻者数1,000件以下をめざす。(H25:1,251件) ・学校教育自己診断において、「日常のあいさつをきちんとできている。」という回答率を95%以上とする。 イ・普通科の部活動入部率を60%以上とする。 ウ・学校教育自己診断において、教育相談に対する肯定的回答を60%以上とする。 ・学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という回答率を80%以上とする。 ・人権学習の生徒アンケートにおいて「理解を深められた。」とする肯定回答率を70%以上とする。 エ・府の指導者研修参加者による伝達講習を含む校内研修を年間2回以上実施する。	ア・遅刻者数が1,138件であり、今後も現状の指導体制を継続していく。(○) ・あいさつの励行について、普通科88.2% 体育科97.0%ができていると回答している。(◎) イ・普通科入部率が男子60.0%、女子56.4%であり、次年度の入部率向上をめざす。(◎) ウ・教育相談に対する肯定的回答が普通科44.4%、体育科57.7%であり、より気軽に生徒が相談できる体制づくりを推進する必要がある。(△) ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という質問への肯定率は普通科73.3%、体育科84.5%である。(○) ・人権学習に対する肯定率が普通科68.9%、体育科78.9%である。(○) エ・職員会議等における教職員への体罰根絶に関する意識啓発を4回行った。(◎)

<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上のためのスポーツ環境の整備 イ 地域スポーツの普及・振興 ウ 地域交流・地域貢献の推進 エ 学校広報の充実</p>	<p>ア・さらなる競技力向上にむけ、ソフト・ハード面での充実を図る。</p> <p>イ・地元小学生対象の「ふれあい大塚スポーツ教室」の充実発展及び地元中学校運動部との連携と交流を推進する。</p> <p>ウ・地域交流としてスポーツ関連事業や市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加して地域交流、地域貢献を進める。</p> <p>エ・総務部を中心に学校説明会、中学校訪問、学校ホームページの充実などを促進する。</p>	<p>ア・施設設備の充実と人的配置の効率化を推進する。 ・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業のさらなる充実を図り、生徒対象のアンケートにおける満足度を70%以上とする。</p> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目増と120名以上の参加者を募るとともに、地元中学校運動部への訪問等(年間3回程度)を行う。</p> <p>ウ・学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」と回答する率を50%以上とする。</p> <p>エ・学校説明会(年間4回実施)の内容を充実させ、参加者の10%アップをめざす。 ・中学校訪問を全教員が分担して実施し、訪問エリアの拡充を図る。 ・学校ホームページの充実とリアルタイムでの更新に努め、アクセス数の20%アップを図る。</p>	<p>ア・グラウンドの狭小なことに起因するトラブルが多発している現状から、施設・設備の充実を計画的に進める必要がある。(△) ・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業のさらなる充実を図り、生徒対象のアンケートにおける満足度が約75%であり、概ね満足度の高い内容となった。(○)</p> <p>イ・地元の2小学校から109名余の参加の元、サッカー、バレー、バスケットの3種目において「ふれあい大塚スポーツ教室」を開催するとともに、3中学校主催の地域フェスタにダンス部が参加した。(◎)</p> <p>ウ・「地域と交流する機会がある」と回答した率が普通科36.0%、体育科62.0%であり、さらに継続して地域連携を進めていく必要がある。(○)</p> <p>エ・年4回の学校説明会と副担任による通学エリアを基本とした中学校訪問を実施し、広報に努めた。(◎) ・学校ホームページ閲覧数が約20%アップしたが、掲載内容の充実と更新頻度を高め、学校PRに努めていく。(○)</p>
--	--	--	--	---